放課後児童支援員
認定資格研修

科目5

児童期（6歳～12歳）の生活と発達

動画1／3

科目5：児童期（6歳～12歳）の生活と発達

ねらい

〇児童期の一般的な特徴を学んでいる。
〇児童期の発達過程と発達領域の基礎を学んでいる。
〇児童期の発達理解のための継続的な学習の必要性を理解している。

主な学習内容

〇子どもの発達と児童期
〇児童期の発達過程と発達領域
〇継続的な学習の必要性

もくじ

1．子どもの発達から見た児童期の位置

2．児童期の発達の特徴

3．児童期の発達過程と発達領域

1．子どもの発達から見た児童期の位置

1．子どもの発達から見た児童期の位置

放課後児童クラブ運営指針　第2章

放課後児童クラブでは、放課後等に子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるようにすることが求められる。このため、放課後児童支援員等は、子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援を行うことが必要である。

能力発揮の仕方は状況（環境や身体）に影響を受けやすい

運動能力や言語能力は安定しているものではない。

発達過程と領域

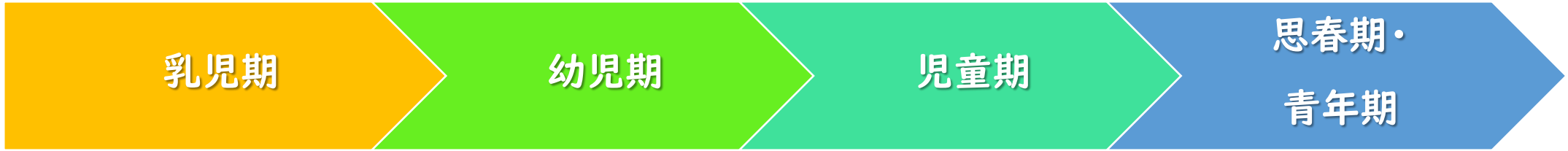
主要な心理機能に対応して、運動、感情、言語、思考、人格等の領域で関連し、発達する。

1．子どもの発達から見た児童期の位置

発達の時期区分

・発達は子どもを早く次の時期へ移行させようとする考え方ではない

・子どもにとっては固有の意味と価値をもつ



・児童期は、小学校への就学という環境上の変化によって始まる

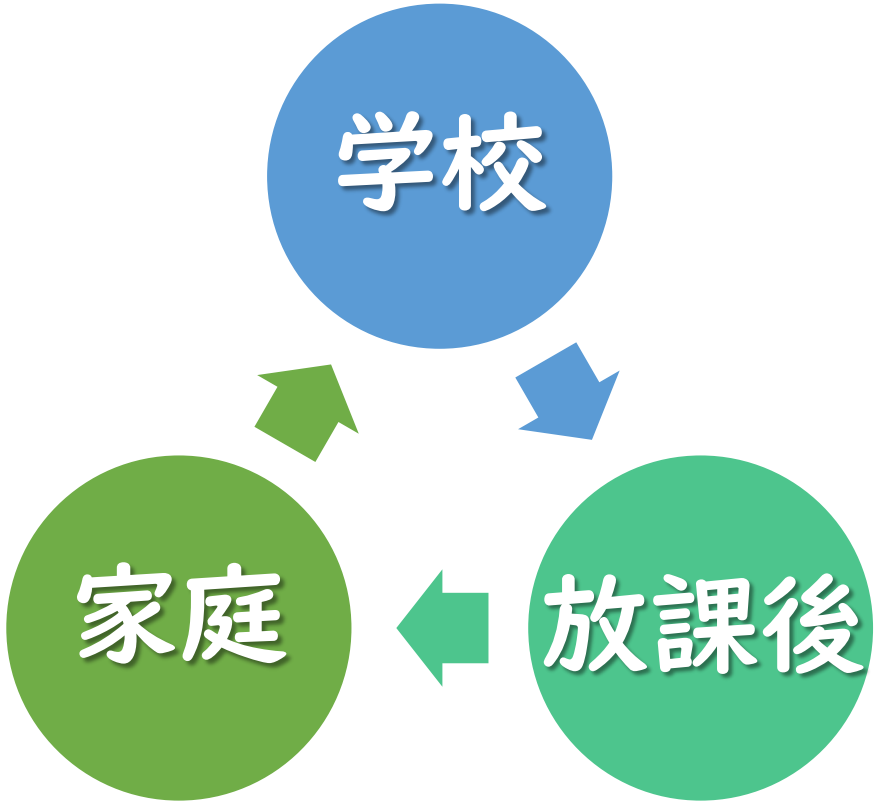
・学校生活への適応には、「努力」や「規律」が求められる

・学び方や遊び方に自由があるからこそ、子どもは主体的に活動し、個性を磨いていくことができる

1．子どもの発達から見た児童期の位置

児童期

生活サイクル



安心して育つために

- ○知的能力
- ○言語能力
- ○規範意識
- ○体力
- ○社会性
- ○想像力や思考力

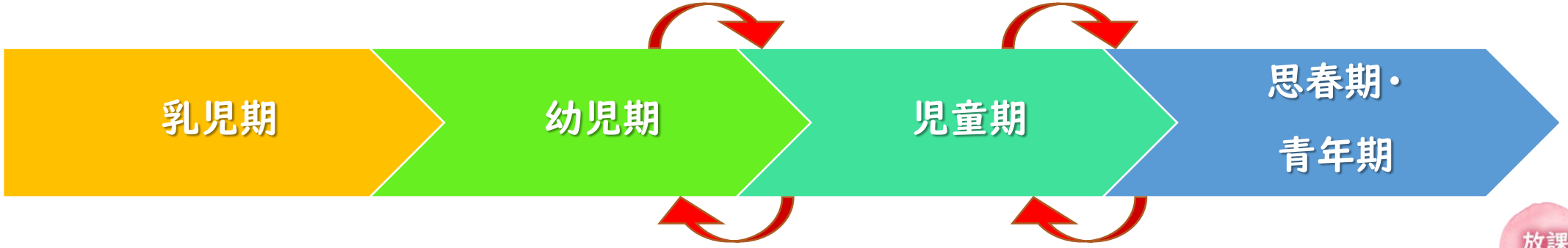
1．子どもの発達から見た児童期の位置

◆幼児期　　大人に見守られるなかで遊びに没頭できる

◆児童期　　しだいに大人から離れ、子ども同士での活動
　　群れて遊ぶことを好む

◆思春期・青年期　　特定の友人と親しい関係、時に一人を好む

◎行きつ戻りつを繰り返す



参考資料

・厚生労働省編（2021）『改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書』フレーベル館. p34-55

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和3年度「放課後児童支援員認定資格研修及び子育て支援員研修の受講促進のための映像教材の作成・周知一式」事業で制作しました。

放課後児童支援員
認定資格研修

科目5

児童期（6歳～12歳）の生活と発達

動画2／3

もくじ

1．子どもの発達から見た児童期の位置

2．児童期の発達の特徴

3．児童期の発達過程と発達領域

2. 児童期の発達の特徴

2. 児童期の発達の特徴

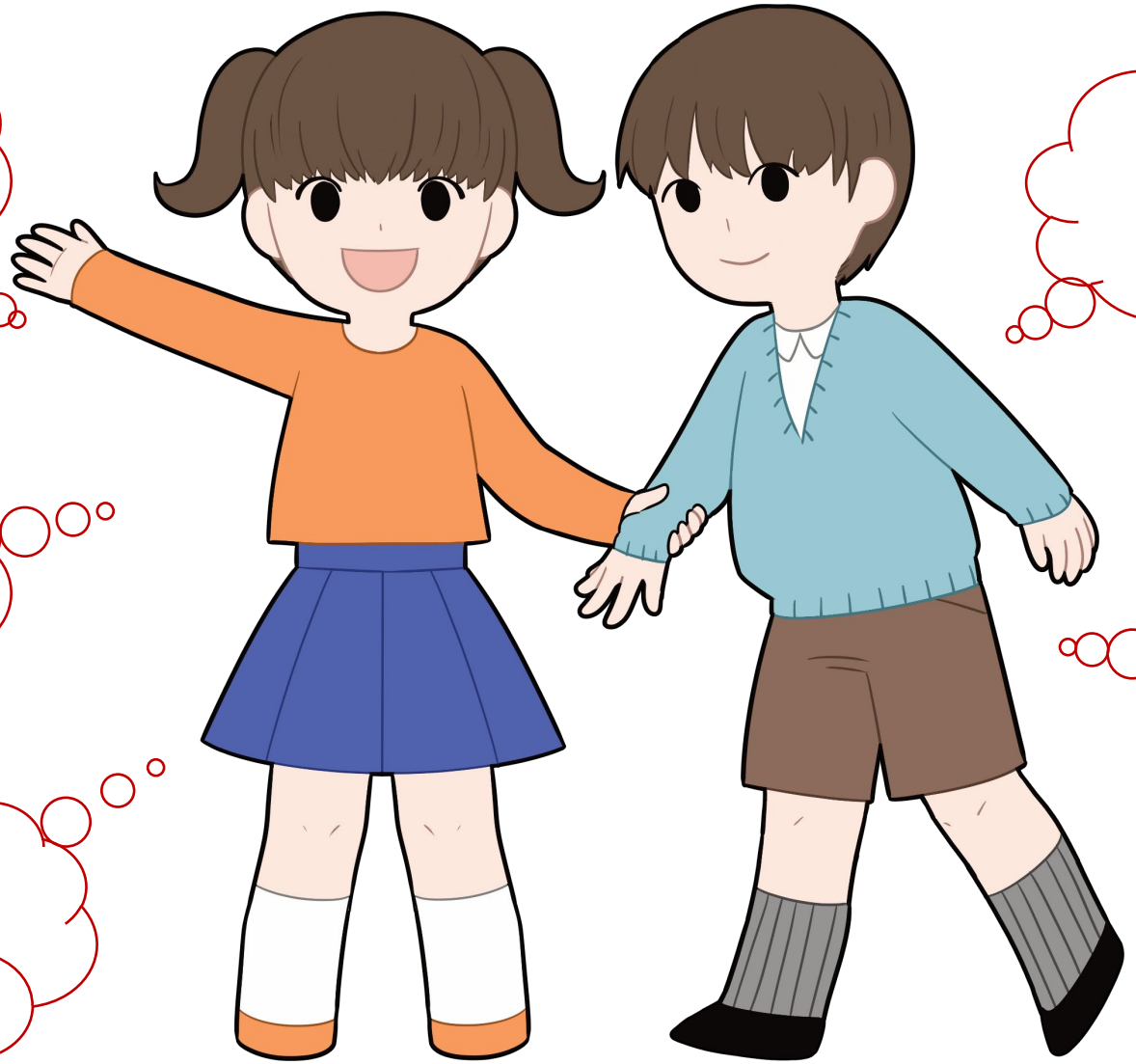
興味関心

頑張っていること

どんな遊び

苦手・嫌なとき

どこで誰と



2. 児童期の発達の特徴

○ ものや人に対する興味が広がり、その興味を持続させ、興味の探求のために自らを律することができるようになる。

○ 自然や文化と関わりながら、身体的技能を磨き、認識能力を発達させる。

○ 学校や放課後児童クラブ、地域等、子どもが関わる環境が広がり、多様な他者との関わりを経験するようになる。

○ 集団や仲間で活動する機会が増え、その中で規律と個性を培うとともに、他者と自己の多様な側面を発見できるようになる。

○ 発達に応じて「親からの自立と親への依存」、「自信と不安」、「善悪と損得」、「具体的思考と抽象的思考」等、様々な心理的葛藤を経験する。

参考資料

・厚生労働省編（2021）『改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書』フレーベル館. p34-55

※イラストの著作権は厚生労働省に帰属するものです。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和3年度「放課後児童支援員認定資格研修及び子育て支援員研修の受講促進のための映像教材の作成・周知一式」事業で制作しました。

放課後児童支援員
認定資格研修

科目5

児童期（6歳～12歳）の生活と発達

動画3／3

もくじ

1．子どもの発達から見た児童期の位置

2．児童期の発達の特徴

3．児童期の発達過程と発達領域

3．児童期の発達過程と発達領域

3．児童期の発達過程と発達領域

○児童期は目安として、おおむね6歳～8歳（低学年）、9歳～10 歳（中学年）、11 歳～12 歳（高学年）の3つの時期に区分することができる。

○この区分は、同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程を理解する目安として捉えるべきものである。

○発達領域　運動、感情、言語、思考、人格等

3．児童期の発達過程と発達領域

おおむね6歳～8歳頃の発達の特徴

◆子どもは学校生活の中で、読み書きや計算の基本的技能を習得し、日常生活に必要な概念を学習し、係や当番等の社会的役割を担う中で、自らの成長を自覚していく。一方で、同時にまだ解決できない課題にも直面し、他者と自己とを比較し、葛藤も経験する。

参考：「おかしをかう」「がっこうがある」 ／ 「1」「2」「3」

◆遊び自体の楽しさの一致によって群れ集う集団構成が変化し、そこから仲間関係や友達関係に発展することがある。ただし、遊びへの参加がその時の気分に大きく影響されるなど、幼児的な発達の特徴も残している。

参考：「走ったり、追いかけたり」「ごっこ遊び」「ルール遊び」

「対抗型の遊び（一対一、複数対複数）」など

3．児童期の発達過程と発達領域

おおむね6歳～8歳頃の発達の特徴

（続き）

◆ものや人に対する興味が広がり、遊びの種類も多様になっていき、好奇心や興味が先に立って行動することが多い。必要に応じた支援も求められる。

◆大人に見守られることで、努力し、課題を達成し、自信を深めていくことができる。その後の時期と比べると、大人の評価に依存した時期である。

3．児童期の発達過程と発達領域

おおむね9歳～10歳頃の発達の特徴

◆論理的な思考や抽象的な言語を用いた思考が始まる。道徳的な判断も、結果だけに注目するのではなく、動機を考慮し始める。

◆お金の役割等の社会の仕組みについても理解し始める。

◆遊びに必要な身体的技能がより高まる。

◆同年代の集団や仲間を好み、大人に頼らずに活動しようとする。他者の視線や評価に一層敏感になる。

◆言語や思考、人格等の子どもの発達諸領域における質的変化として表れる「9、10歳の節」と呼ばれる大きな変化を伴っており、特有の内面的な葛藤がもたらされる。この時期に自己の多様な可能性を確信することは、発達上重要なことである。

3．児童期の発達過程と発達領域

おおむね11歳～12歳頃の発達の特徴

◆ 高学年の子どもたちの様子

◆ 学校内外の生活を通じて、様々な知識が広がっていく。また、自らの得意不得意を知るようになる。

◆ 日常生活に必要な様々な概念を理解し、ある程度、計画性のある生活を営めるようになる。

◆ 大人から一層自立的になり、少人数の仲間で「秘密の世界」を共有する。友情が芽生え、個人的な関係を大切にするようになる。

◆ 身体面において第2次性徴が見られ、思春期・青年期の発達的特徴が芽生える。しかし、性的発達には個人差が大きく、身体的発育に心理的発達が伴わない場合もある。

参考資料

・厚生労働省編（2021）『改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書』フレーベル館. p34-55

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和3年度「放課後児童支援員認定資格研修及び子育て支援員研修の受講促進のための映像教材の作成・周知一式」事業で制作しました。